



TITLE:

# 講義ノート 第49回 物性若手夏の学校(2004年度)

AUTHOR(S):

---

CITATION:

講義ノート 第49回 物性若手夏の学校(2004年度). 物性研究 2005, 83(5): 569-570

ISSUE DATE:

2005-02-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/110149>

RIGHT:

---

## 講義ノート

---

### 第49回 物性若手夏の学校 (2004年度)

#### ”祭の後”

今年も、材料科学技術振興財団、東京大学物性研究所、京都大学基礎物理学研究所、東北大学金属材料研究所、及び多くの企業による夏の学校への理解と、援助を受け無事に第49回物性若手夏の学校を開催することが出来ました。まずその事を報告させて頂き、頂いた援助に心から感謝いたします。

夏の学校は、どこかお祭りに似たようなところがあります。日本全国から‘物性’という比較的広い分野に属する学生が集まり、共に学び、議論し、交流を深める。それは他の場ではなかなか得ることが出来ないものでしょう。

今年の夏の学校では、先生方による講義だけではなく、参加者から主体的に参加できるイベントも重視しました。その一環として参加者から大きく三つの分野にわたって参加者を募り、発表を行なう分科会を実施しています。発表者にとってはプレゼンの練習になると共に、研究室セミナーではなかなか聞けないような意見を聞く良い機会として、聴講者にとっては、他分野の研究に触れる機会として良い経験になったのではないかと思います。

その一方で、お招きした先生方には非常に刺激的な講義をして頂くと共に、夜は学生の輪に混じって様々な話をして頂き、講義と違った意味の刺激を与えて頂きました。以下で集録されている講義録からそのような雰囲気を感じ取って頂ければ幸いです。

蛇足かとは思いますが、このイベントは完全に学生の手によって運営されています。それゆえの利点も欠点もあるかとは思いますが。しかし取りあえず私個人にとっては、夏の学校の運営を通して、様々な経験を出来る機会を持てたこと、そして何より同年代の素晴らしいスタッフに会えたことは、何にもまして素晴らしいものでした。そのような機会を与えて頂いたことと、何より共に働いてくれたスタッフの一人一人に感謝します。

何はともあれ今年度の祭は終わりました。今、来年度のスタッフが開催に向けて頑張っているところだと思います。来年度の夏の学校が素晴らしいものになることを祈って筆をおかせて頂きます。一年間ありがとうございました。

第49回物性若手夏の学校校長 辰己 創一

## 目次

### ■ 講義

小口 多美夫 (広島大学)	
「第一原理計算 -バンド理論の基礎と応用-」 *	571
関本 謙 (レイ＝パスツール大)	
「ゆらぎのエネルギー論」	**
田崎 晴明 (学習院大学)	
「くりこみ群の視点」*	**
水口 毅 (大阪府立大学)	
「素子と結合～非線形物理入門～」 *	583
溝川 貴司 (東京大学)	
「強相関物質の電子状態を放射光分光で探る」 *	599
山田 耕作 (京都大学)	
「相関の強い電子系の超伝導」 *	624

### ■ サブゼミ

鹿児島 誠一 (東京大学)	
「有機導体の低次元電子:超伝導とクーロン相関を巡る最近の話題」 *	650
佐藤 勝昭 (東京農工大学)	
「磁気光学効果の基礎と最近の研究の展開」 *	660
外村 彰 (日立製作所)	
「電子の波で見るミクロの世界」	672
西垣 真祐 (島根大学)	
「ランダム行列と localization の最近の話題について」	**
古澤 明 (東京大学)	
「連続量を中心にした量子情報処理」 *	682
柳田 敏雄 (大阪大学)	
「素子の“あいまいさ”と生体システムの“やわらかさ”」	691

(編集部注) \* 「物性研究」のために、あらたに加筆・修正していただいた。

\*\* 都合により、本号への掲載は省略。